

理学部教育プログラム

1. 理学部における教育体系

理学部教育プログラムは、学生が学問の基礎や専門分野の知識・考え方を身につけ、柔軟な発想や的確な判断ができ、さらに社会に貢献できる人材に育つことを目標としています。そのためには、次のような幅広い範囲の学習が必要です。

- ・理学全体への興味と理解を持つ
- ・専門分野の知識や考え方を身につける
- ・人文科学や社会科学にも目を向け、科学と社会のつながりを理解する
- ・語学を学習し国際的交流ができる能力を身につける
- ・コンピューターを使いこなす能力を身につける
- ・自発的に健康管理を行い、学習を支える体力を身につける

1年次から4年次にわたる細部にまで配慮したプログラムによって、幅広い基礎をもとに専門分野を学んでいくことができます。

理学部教育プログラムに含まれる授業科目は「全学共通教育科目」と「専門教育科目」の2つに大別されます。全学共通教育科目は全学の教員が協力して授業を担当し「全学教育推進機構」で開講しています。専門教育科目は理学部が担当します。

全学共通教育科目

- ・専門基礎教育科目（理学部コア科目を含む）
- ・教養教育科目
- ・言語・情報教育科目
- ・基礎セミナー
- ・健康・スポーツ教育科目

専門教育科目

- ・数学科の専門教育科目
- ・物理学の専門教育科目
- ・化学の専門教育科目
- ・生物科学の専門教育科目
- ・その他



理学部教育プログラムには次の科目も含まれ、理学部学生の多様なニーズに応えています。

教職科目

国際交流科目

コミュニケーションデザイン科目

グローバルコラボレーション科目

2. 理学部コア科目

理学部コア科目は、全学共通教育科目に含まれる専門基礎教育科目のなかで、理学部の学生を対象として提供されている科目です。理学部に入学した学生は、数学科、物理学科、化学科、生物科学科のいずれかの学科に分属していますが、理学部コア科目を全学科共通の科目として受講することによって広い視野に立った理学の基礎を学びます。2年次から始まる専門教育科目は、理学部コア科目からスムーズに接続されるように構成されています。

理学部コア科目

区分		授業科目名	単位数	学科		備考
分野	数学科 化学科 生物科学科			物理学科		
専門基礎教育科目	数学	基礎解析学 1	3	◎	◎	<数学科・化学科・生物科学科> 必修科目(◎) 19 単位, 選択必修科目(※) 4 単位, 選択科目(○) 2 単位以上, 計 25 単位以上を修得してください。 選択必修科目(※) は, 次の履修方法のうちいずれかを選択し, 履修してください。 ただし, 大阪大学入学者選抜個別学力検査等(第2次試験)において物理を選択した者は, (1)を選択し, 履修しなければなりません。 (1)「物理学 1 A または 1 B」から 1 科目選択, 「物理学 2 A または 2 B」から 1 科目選択, 計 2 科目(4 単位)を修得してください。 (2)「物理学序論 1 及び 2」の計 2 科目(4 単位)を修得してください。 <物理学科> 必修科目(◎) 23 単位, 選択科目(○) 2 単位以上, 計 25 単位以上を修得してください。 注 1) 専門基礎教育科目のうち, 左表の授業科目を, 理学部コア科目と呼びます。 注 2) 選択科目において, 2 単位を超えて修得した単位は, 4 単位を限度として専門教育科目の選択科目の単位に算入することができます。この場合において, 専門教育科目の単位に算入された単位は, 全学共通教育科目の「その他」科目の単位に算入できません。
		基礎解析学 2	2	◎	◎	
		線形代数学 1	2	◎	◎	
		線形代数学 2	2	◎	◎	
		確率・統計	2	○	○	
	物理学	物理学 1 A	2	※	◎	
		物理学 1 B	2	※		
		物理学 2 A	2	※	◎	
		物理学 2 B	2	※		
		物理学序論 1	2	※		
		物理学序論 2	2	※		
		現代物理学入門	2	○	○	
	化学	基礎化学 1	2	◎	◎	
		基礎化学 2	2	◎	◎	
		基礎化学 3	2	○	○	
	地学	宇宙地球科学 1	2	○	○	
		宇宙地球科学 2	2	○	○	
	生物学	生物科学コア A	2	◎	◎	
		生物科学コア B	2	○	○	
	実験	自然科学実験 1 数学	1	◎	◎	
		自然科学実験 1 物理	1	◎	◎	
		自然科学実験 1 化学	1	◎	◎	
		自然科学実験 1 生物・地学	1	◎	◎	
		自然科学実験 2 物理	1	○	○	
		自然科学実験 2 化学	1	○	○	
		自然科学実験 2 生物	1	○	○	
		自然科学実験 2 地学	1	○	○	
	化学※	Introductory Chemistry 1	2	*	*	
		Exercise Session (Introductory Chemistry 1)	2	*	*	
		Introductory Chemistry 2	2	*	*	
		Exercise Session (Introductory Chemistry 2)	2	*	*	
必要単位数				25	25	
他学部配当の専門基礎教育科目の修得した単位は, 「その他」科目の単位に算入することができます。ただし, 次の科目の単位は「その他」科目の単位に算入できません。						
[人間科学部・文学部・法学部・経済学部・外国語学部配当]				[基礎工学部・工学部配当科目]		
・Japan in the World				・Introductory Physics 1		
・Anthropology and Contemporary Global Issues				・Introductory Physics 2		
・Introduction to Social Psychology				・Basic Physics Experiments		
・Politics in Post-War Japan				・Introductory Chemistry Experiments		
・Media Sociology				・Basic Biology Experiments		
・Cross Cultural Psychology						
・Introduction to International Relations						

3. 全学共通教育科目の履修方法

履 修 区 分	教養教育科目				言語・情報教育科目				基礎セ ミナー	健康・ スポーツ教育 科目	専門基礎教育 科目 (理学部 コア科目 から履修 すること)	その他	合計		
	基礎教 養科目	現代教 養科目	先端教 養科目	国際教養科目		外国語教育科目								情報処 理教育 科目	
				国 際 教養 1	国 際 教養 2	第 1 外国語		第 2 外国語							
						大 学 英 語	実践英語・ 専門英語								
							実 践 英 語								専 門 英 語
単位数	2	2	2	2	4	3	1	3	2	—	2	25	6	54	
	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○			

注) ○印については P. 8 の「その他」欄を参照してください。

教養教育科目

「基礎教養科目」のうち「基礎教養 1」

理学部に配当される科目の中から、1 科目 2 単位以上を修得する必要があります。

「現代教養科目」

理学部に配当される科目の中から、1 科目 2 単位以上を修得する必要があります。

「先端教養科目」及び「国際教養科目」のうち「国際教養 1」

理学部に配当される科目の中から、先端教養科目と国際教養 1 の授業科目のうちから 1 科目 2 単位以上を修得する必要があります。

「国際教養科目」のうち「国際教養 2」

履修する第 2 外国語と一致する科目を 2 単位以上修得する必要があります。

第 I セメスターで、国際コミュニケーション演習または地域言語文化演習から 2 単位を修得してください。

第 2 外国語に「日本語」を選択した外国人留学生は、第 I セメスターで多文化コミュニケーションを 2 単位修得してください。

言語・情報教育科目

外国語教育科目

- ・第 1 外国語：理学部に配当される科目の中から、大学英語 4 単位、実践英語 3 単位、専門英語 1 単位 計 8 単位を修得しなければなりません。
- ・第 2 外国語：「ドイツ語」「フランス語」「ロシア語」「中国語」の理学部に配当される科目の中から、1 つの外国語を選択し、選択した外国語の授業科目から 3 単位修得しなければなりません。
- ・外国人留学生は、第 2 外国語に「日本語」を選択することができます。
- ・英語を母国語とする外国人留学生は、第 1 外国語の「大学英語」、実践英語・専門英語の理学部に配当される科目の中から 3 単位、第 2 外国語の「日本語」の理学部に配当される科目の中から 3 単位、国際教養科目国際教養 2 の「多文化コミュニケーション 1 及び 2」の理学部に配当される科目の中から 2 単位、計 8 単位を第 1 外国語として修得することができます。また、第 2 外国語には、「ドイツ語」「フランス語」「ロシア語」「中国語」のうち、理学部に配当される科目の中から一外国語を選択し、履修することができます。

情報処理教育科目

「情報活用基礎」の2単位が必修です。この単位を超えて修得した単位は、「その他」の6単位に充てることはできませんが、自由選択科目の単位となる場合がありますので注意してください。

基礎セミナー

必修には指定されていませんが、総合大学としての本学の特徴を生かした様々な少人数授業が開講されており、履修することが奨励されます。

修得した単位は「その他」の6単位に充てることができます。

健康・スポーツ教育科目

「スポーツ実習A」（1単位）を含む2単位を修得する必要があります。なお、「スポーツ実習A」の他の1単位は、「スポーツ科学」（1単位）、「健康科学実習A」（1単位）および「健康科学」（1単位）から選択してください。

専門基礎教育科目

理学部コア科目からは必ず25単位以上修得する必要があります。

その他

「その他」の6単位は、「教養教育科目（基礎教養2，基礎教養3を除く）」「外国語教育科目」「基礎セミナー」「健康・スポーツ教育科目」「専門基礎教育科目」の単位のうち、それぞれの卒業要件単位を超える分をもって充てます。（P. 7の全学共通教育科目にかかる卒業要件単位数一覧表にある○印の付いた科目）

ここで、「教養教育科目（基礎教養2，基礎教養3を除く）」「外国語教育科目」「健康・スポーツ教育科目」については理学部に配当されている科目（及び「健康・スポーツ教育科目」については自由科目も）が対象です。情報処理教育科目で2単位を超えて修得した単位は「その他」の科目の単位にはならないことに注意してください。

なお、国際教養科目国際教養2及び、外国語教育科目については、理学部に配当されている科目及び*印のついた科目のみを「その他」の単位と認めます。該当する科目については、『全学共通科目履修の手引』を参照してください。

自由選択科目について

他学科や他学部の専門教育科目から修得した単位、全学共通教育科目の情報処理教育科目において所定の単位を超えて修得した単位、国際交流科目、コミュニケーションデザイン科目やグローバルコラボレーション科目から修得した単位、および大学間相互単位互換協定に基づく他大学の科目から修得した単位は、合わせて10単位を限度として専門教育科目の選択科目の単位に算入することができます。ただし、情報処理教育科目、国際交流科目、コミュニケーションデザイン科目、グローバルコラボレーション科目に関しては、合わせて2単位を限度とします。詳細は学科別履修指針にある各学科の「卒業要件単位表」を参照してください。

理学部では、これらの科目の履修を広く認めています。特に所属する学科の専門と関連する科目については、自由選択科目に含める単位として履修を奨励します。これらの科目の履修にあたっては、各学科の履修指針等を参照してください。

4. 注意事項

1) クラス編成

理学部コア科目と情報処理教育科目の必修科目を履修する際のクラスは、数学、物理学、化学、生物科学の各学科の学生からなる混成クラスであり、このクラスが単位となって授業を受けます。具体的なクラス編成は、新入生学部別履修指導の時に配布されます。上記以外の全学共通教育科目の受講に関しては、『全学共通教育科目履修の手引』を参照してください。

2) 専門教育科目の選択科目の単位

専門教育科目の選択科目の単位としては、各学科専門教育科目編成表に記載されている専門教育科目の選択科目を修得する以外に、次に説明する科目の単位を修得しても専門教育科目の選択科目の単位として扱われます。

- ・理学部コア科目の中の選択科目

理学部コア科目において、選択科目から2単位は必ず修得しなければなりませんが、2単位を超えて修得した単位は、4単位までを専門教育科目の選択科目の単位に算入できます。

- ・自由選択科目

前頁記載を参照してください。

3) 転科

入学後の大学の勉学を通して、専門分野を再考して、理学部内での学科変更（転科）を希望する学生は、2学期終了時に行われる転科試験（筆記・口頭試問と面接）を受ける必要があります。試験は転科希望先の学科毎に行われます。筆記試験は、主に理学部コア科目の内容から出題されます。可否は試験の成績と理学部コア科目の1年次の成績とを総合して決めます。詳細な試験実施要項は10月頃に掲示されます。

4) 転部

転部を希望する学生は、理学研究科学務係に相談してください。

5) 履修手続について

履修にあたっては、定められた手続にしたがって履修科目の申請及び登録を行わなければなりません。

- ① 履修しようとする授業科目の履修手続きは、第1学期と第2学期の各学期始めにあります。それぞれ指定された登録期間内にパソコン等のWebブラウザを使用し、学務情報システムKOANで履修登録を行ってください。登録期間やその他詳細については掲示によりお知らせしますので、その指示や内容を確認し、必ず登録期限までに履修手続き

を行ってください。

- ② 授業科目の中には年度途中に開講する等により、登録期間が各学期の始めではない場合もあります。また、学務情報システム KOAN で履修登録を行わない授業科目もあります。これらの科目の履修手続きについても掲示等でお知らせしますので、その指示や内容を確認し、所定の履修手続きを行ってください。
- ③ 学期の途中で、履修登録した授業科目を取り消したい場合は、学期ごとに定められた履修取消期間に、当該科目の履修登録を取り消すことができます。履修取消期間については、掲示等でお知らせします。定められた期間外に、履修登録した授業科目を取り消すことはできません。
- ④ 理学部コア科目を含む全学共通教育科目の履修手続きは、『全学共通教育科目履修の手引』記載の「履修手続」の項及び掲示等にしがってください。
- ⑤ 他学科及び他学部、国際交流科目、コミュニケーションデザイン科目及びグローバルコラボレーション科目の履修手続きについても、掲示等で特に指示がない限り、学務情報システム KOAN で履修登録を行ってください。ただし、当該授業科目を開講する学部（部局）等の所定の手続きや制限により、履修を認められない場合もあります。開講する学部（部局）の指示を仰ぐか、または授業の際に当該授業科目担当教員に確認してから履修手続きを行ってください。
- ⑥ 高学年に配当されている授業科目の履修は原則認められません。ただし、各学科の履修相談を担当する教員との相談により、教育上有益な履修であり、かつ当該授業科目の履修に相応しい学力を備えると判断される場合は、履修を認める場合があります。その場合、当該科目の申請登録期限までに、所定の申請用紙を理学研究科学務係に提出してください。
- ⑦ 大学間相互単位互換協定に基づく科目の履修については、事前に理学研究科学務係に相談してください。
- ⑧ 必要な学修がなされていないと判断される場合、特定の科目については履修制限等の指導を行うことがあります。これは、当該授業科目を履修するために必要とされる学修（または単位修得）がされていることを前提とする授業科目があるからです。また、教育上有益な科目の履修を奨励することから、他学科や他学部等の科目に対してもその履修制限を課すこともあります。本誌便覧の「各学科履修指針」に記載する内容をよく確認し、計画的に授業科目の履修を行うようにしてください。

6) 不正行為について

専門教育科目の筆記試験等において不正行為を行ったものは、その学期の専門教育科目の成績評価が全て無効となります。

5. 知的能動性をはぐくむ理学教育プログラム

理学部では、本誌便覧で説明されているように質の高い教育を保証する教育カリキュラムが整備されています。しかしながら、大学のような高等教育の場では、受動的な姿勢ではなく自らが

積極的に学ぼうとする姿勢が大切となります。

そこで、学生が主体的に学ぼうとする意欲を促すとともに、高いモチベーションを持って学習することができるよう、理学部では、平成 20 年度～平成 22 年度まで、教育 GP「知的能動性をはぐくむ理学教育プログラム」として文部科学省から支援を受け、以下の 3 種の取り組みを実施しました。

- (A)「理学部コア科目」と「専門教育科目」をつなぐ科目や実験・実習・演習など、能動性を高める科目「専門へのステップアップ教育」の実施
- (B) 学生を主体とした知的能動性を高める取り組み「能動的学生啓発プログラム」の実施
- (C) 社会や先端研究を意識させ、能動的に将来展望を描く「キャリアパス・デザイン教育」の導入

理学部では、このような趣旨に基づいた科目や行事（学生の企画による合宿、将来展望ワークショップなど）に現在も継続して取り組んでいますので、積極的に参加してください。

6. 理数オーナープログラムについて

理学部では意欲的な学生を応援するための理数オーナープログラムを実施しています。理数オーナープログラムは、強い意欲を持つ学生のためのより進んだ内容を学ぶオーナーカリキュラムと討論形式の徹底した少人数対話型授業（オーナーセミナー）からなっています。オーナーセミナーでは、課題設定能力と創造力を身につけるために、自ら設定した課題について自主研究を行います。理数オーナープログラム修了者には卒業時に修了証を授与します。社会的活動や研究活動の発信性などを考慮し、特に優秀な修了者は「優秀修了」として表彰します。

理数オーナープログラムのホームページ

<http://www.sci.osaka-u.ac.jp/ja/honr/>

7. 学部生による大学院科目の履修制度

理学研究科では、学部生により高度な学びの機会を与え、博士前期課程入学後の早い段階で質の高い研究指導を行うため、意欲的で優秀な学部生を大学院理学研究科科目等履修生として受け入れ、大学院科目（理学研究科開講科目）の履修を可能にする制度があります。

この制度の対象は学部 3 年次および 4 年次生ですが、履修を許可されるためには一定の条件をみたす必要があります（専門教育科目修得科目の G P A が 3.00 以上等）。また、履修できる科目や単位数にも制限があります。

詳細は、各学科の履修相談を担当する教員または理学研究科学務係にお問い合わせください。

8. グレード・ポイント・アベレージ（G P A）制度について

本学では平成 26 年度学部入学者から G P A 制度を導入しました。G P A 制度の実施は、学修の状況及び成果を示す指標としての G P A を算出することにより、学生の学習意欲の向上及び適切な修学指導に資するとともに、教育の国際化を促進することを目的とします。

1) G Pについて

成績の評価及び各評価に与えられるG Pは、以下のとおり定めています。

成績の評価	S (90 点以上)	A (80 点以上 90 点未満)	B (70 点以上 80 点未満)	C (60 点以上 70 点未満)	F (60 点未満)
G P	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

2) G P Aについて

当該学期におけるG P A（以下「学期G P A」という。）及び全在学期間におけるG P A（以下「通算G P A」という。）があります。学期G P A及び通算G P Aを算出する計算式は以下のとおりです。

（G P Aの算出は、小数点以下第3位を切り捨てるものとします。）

【学期G P Aを算出する計算式】

$$\text{学期G P A} = \frac{(\text{当該学期に評価を受けた各授業科目で得たG P} \times \text{当該授業科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計}}$$

【通算G P Aを算出する計算式】

$$\text{通算G P A} = \frac{((\text{各学期に評価を受けた各授業科目で得たG P} \times \text{当該授業科目の単位数}) \text{の合計}) \text{の総和}}{(\text{各学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計}) \text{の総和}}$$

3) G P A算出の対象科目について

共通教育系科目，専門教育系科目，国際交流科目，コミュニケーションデザイン科目及びグローバルコラボレーション科目のうち，大阪大学学部学則第10条の7第2項に基づく試験の成績の評価を行う授業科目であって，理学部において卒業要件に算入できる授業科目とします。

ただし，次の各号に該当する授業科目については，G P Aの計算から除くものとします。

- ① 本学在学中に他の大学（短期大学を含む。）において履修した授業科目，又は外国の大学（短期大学を含む。）において履修した授業科目
- ② 入学前に本学若しくは他の大学（短期大学を含む。）において履修した授業科目，又は外国の大学（短期大学を含む。）において履修した授業科目（科目等履修生として履修した授業科目を含む。）
- ③ 本学在学中に大学以外の教育施設等における学修（短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修）を本学における授業科目の履修とみなし，単位を与えられた授業科目
- ④ 大阪大学学部学則第14条から第15条までの規定による編入学等に伴い，本学の授業科目を学修したものと同等以上の学力があると認定された授業科目

- ⑤ 前各号に掲げるもののほか、学部学科が別に定める授業科目
(現在、該当する科目はありません。「安全実験法」や「理学への招待」は可否により評価が行われる科目となるため、GPA算出の対象となりません。)

4) 「履修取消し」について

履修登録を取り消した授業科目は、学期GPA及び通算GPAの算出から除外します。なお、履修を取り消した授業科目は、学務情報システムKOANでは「W」(Withdrawal)で表示されます。

※本制度の詳細は、「マイハンダイ」に掲載の「大阪大学におけるGPA制度の導入について Q & A」で確認してください。

9. Q & A

〔科目の分類について〕

Q 1 専門基礎教育科目とは何ですか？

A 1 専門基礎教育科目は全学共通教育科目の一部で、初年次あるいは2年次に各学部・学科で行う専門科目の基礎的な部分を学ぶ科目です。理系の科目と文系の科目があります。理系の科目のうち「理学部コア科目」は、理学部に入学した皆さんが専門教育科目を学ぶために必要な基礎を身につけるための大変大切な科目です。粘り強く学んでください。

Q 2 理学部コア科目と専門基礎教育科目の関係はどうなっていますか？

A 2 理学部コア科目は専門基礎教育科目の一部で、理学部の学生に対してのみ開講されている科目です。例えば、全学共通教育科目の物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験等は専門基礎教育科目ですが、理学部コア科目には含まれていません。

Q 3 「その他」の科目として、どのような科目をとればいいのでしょうか？

A 3 修得した「教養教育科目(基礎教養2, 基礎教養3を除く)」「外国語教育科目」「基礎セミナー」「健康・スポーツ教育科目」「専門基礎教育科目」の単位のうち、それぞれの卒業要件単位を超える分をもって充てます。情報処理教育科目で2単位を越えて修得した単位は「その他」の科目の単位にはならないことに注意してください。

Q 4 「自由選択科目」とはどんなものですか？

A 4 他学科や他学部の専門教育科目や大学間相互単位互換協定に基づく他大学の科目を修得した場合、また、全学共通教育科目の情報処理教育科目において所定の単位を超えて修得した場合、および国際交流科目やコミュニケーションデザイン科目を修得した場合、自由選択科目と認定され、専門教育科目の選択科目の単位数に算入できます。算入できる単位数は10単位が上限で、また、情報処理教育科目、国際交流科目、コミュニケーションデザイン科目、グローバルコラボレーション科目に関しては、合わせて2単位までが認められます。(P. 8参照)

Q 5 教員免許を取得したいのですが…。

A 5 理学部では、卒業までに所定の科目を修得すると、中学校・高等学校の「数学」「理科」「情報」の免許を取得することができます。詳しくは、大阪大学教育課程委員会が作成する『大阪大学【教職課程ブックレット】1 教職課程への招待 教育職員免許状修得ガイド』を参照してください。このブックレットは、4月上旬に開かれる教職課程ガイダンスで配布するほか、理学研究科学務係でも入手可能です。

Q 6 私は数学科ですが、理科の教員免許を取ることができますか？（またはその逆）

A 6 不可能ではありませんが、他の学科の専門教育科目を教員免許のためだけに履修する必要がある、4年間で数学科の卒業要件単位と理科の教員免許を取得するための単位を修得するのは、難しいかもしれません。詳しくは理学研究科学務係へお問い合わせください。

〔履修について〕

Q 1 他学科、他学部の授業科目を履修しようと思いますが、特別な手続きや制限はありますか？

A 1 他学科の授業科目を履修する場合、特別な履修手続きは不要です。KOAN等により所定の履修手続きを行ってください。ただし、当該学科の3年生の実験や4年生の卒業研究にあたる科目などは、履修のための条件がありますので履修することはできません。他学部の授業科目を履修する場合、KOAN等による所定の履修手続きをすることについては他学科の授業科目と同様ですが、開講する学部（部局）等の定めるところにより、履修を制限される授業科目があるかもしれません。開講する学部等の指示を仰ぐか、または授業の際に当該授業科目担当教員に確認してから履修手続きを行ってください。

Q 2 P. 9, 10 の「5）履修手続について」の中に、「必要な学修がなされていないと判断される場合、特定の科目については履修制限等の指導を行うことがある」と書かれています。また、「教育上有益な科目の履修を奨励することから、他学科や他学部等の科目はこのような指導を行うこともあります」と書かれています。具体的には、どのような科目を指していますか？

A 2 本誌便覧の「各学科履修指針」に記載する「卒業するために必要な単位と条件」をよく確認してください。学科ごとに、3年生の実験や4年生の卒業研究にあたる科目などを履修するための条件が記載されています。自由選択科目の履修にあたっても、各学科の履修指針等を参照してください。なお、シラバスに条件が記載されている授業科目もありますので注意してください。不明な点がある場合は、各学科の履修相談を担当する教員（わからなければ、身近な教員あるいは理学研究科学務係で確認）に確認・相談を行うようにしてください。

〔単位について〕

Q 1 理学部コア科目の選択科目から8単位をとったのですが、これらは卒業のための単位として使えますか？

A 1 2単位は必ず取らなければならない単位ですが、残りの6単位は専門教育科目の選択科目、あるいは「その他」の単位に算入することができます。（P. 7, 8参照。例えば専門教育科目

の選択科目に4単位と「その他」に2単位、または「その他」に6単位等のように専門教育科目の選択科目や「その他」の単位に算入できます。)

〔転科について〕

Q 1 私は現在所属している学科から他の学科に変わりたいのですが…。

A 1 まず、身近な教員(講義やゼミの担当教員)、担任教員、または学科長に相談するとよいでしょう。転科を希望する場合は、2学期末に行われる転科試験を受けてください。転科試験に関しては、P. 9を参照してください。

〔その他の情報〕

Q 1 いろいろな情報はどの掲示板に掲載されるのでしょうか？

A 1 全学共通教育関係の情報(講義や休講等の情報)は、主に全学教育推進機構の掲示板に掲載され、理学部関係の情報(奨学金関係や担任による呼び出し等)は、理学部の掲示板に掲載されます。しかし、逆の場合もありますので、両方の掲示板を常に見ておくてください。また、学科独自の掲示板もありますので、所属の学科の掲示板も常に見ておくよう注意ください。なお、学務情報システム KOAN の掲示板のみによる掲示も多くありますので、注意してください。

Q 2 住所を変更したのですが…。

A 2 学務情報システム KOAN で新しい住所を登録してください。また、大学から直接連絡する場合もありますので、電話番号や e-mail アドレスも常に最新の情報を登録するようにしてください。

Q 3 履修登録はどこでするのでしょうか？

A 3 Web ブラウザを使用し、学務情報システム KOAN にて履修登録します。学内の理学部情報処理室、及びサイバーメディアセンター豊中教育研究棟、吹田教育実習棟に設置してあるパソコンを利用してください。また、Web ブラウザの利用できる学外のパソコン等からも使用可能です。入学後、履修登録までに配布する大阪大学個人 ID とパスワードをなくさないよう大切に保管してください。

Q 4 教育実習へ行っている間は、公欠になりますか？

A 4 理学部教授会で、各授業担当教員に対して「教育実習の期間内は授業に配慮していただく」よう、アナウンスをしていますが、扱いとしては公欠になりません。

Q 5 休学したいのですが…。

A 5 3ヶ月以上連続して修学できない場合は、学部長の承認を得て、その学年の終わりまで休学する事ができます。休学の願い出は、休学を開始する1ヶ月前までに、理学研究科学務係へ提出してください。詳しくはP. 82を参照してください。

Q 6 授業料免除・日本学生支援機構奨学金を受けたいのですが…。

A 6 豊中学生センター，または吹田学生センターで申請を受け付けます。申請の時期や方法は，学生掲示板に掲載されますので，常に学生掲示板をチェックしてください。詳しくは，P. 94～97 を参照してください。

Q 7 悩みを相談したいのですが…。

A 7 修学面，生活面，健康面など，日常における様々な悩みについて，理学研究科の教員に相談することができます。各学科の相談員は，P. 89 を参照してください。相談は電話でも良いですが，E メール (sodan@sci.osaka-u.ac.jp) でも受け付けていますので，悩み事があればとにかく一度メールしてみてください。

そのほか，授業期間中（金曜日を除く）は理学部本館E棟E217 室にて「なんでも相談室」を開室しています。

その名のとおり，気軽に「なんでも」相談してください。なんでも相談室は，Eメールでも悩み相談を受け付けています。(nandemo@sci.osaka-u.ac.jp.)

また，「学生相談室」では，専門のカウンセラーに相談することができます。詳しくは，P. 91 を参照してください。

Q 8 大学で怪我をしてしまったのですが…。

A 8 学生実験や授業の最中の事故や怪我の場合は，直ちに実験・授業担当の教員に連絡し，指示を仰いでください。

ちょっとした怪我は診療時間内なら保健センターで処置してもらえます。しかし保健センターには確定的な診断や治療に必要な X 線写真やその他の検査（MRI など）の装置がなく，必要な場合には近くの病院等が紹介されます。

入学手続きの際に学生教育研究災害傷害保険の加入手続き書が配布されていますが，この保険に加入することにより，教育研究活動中に怪我などをした場合，保険金が支払われます。理学部では，1 年次から実験がありますので，必ず全員加入するようにしてください。

保健センター，学生教育研究災害傷害保険に関する詳しい内容は，P. 87～89 を参照してください。

Q 9 台風が来ている場合，授業は休講になりますか？

A 9 大阪府「豊中市・吹田市・茨木市・箕面市のいずれか又はこれらの市を含む地域」に「暴風警報」又は「特別警報」が発令された場合，授業は休講になります。詳しくは，P. 98 を参照してください。

Q10 証明書がほしいのですが…。

A10 学割証，在学証明書，成績証明書，卒業見込証明書，健康診断証明書（定期健康診断受検者のみ）については，全学に設置された証明書自動発行機で出力することができます。（ただし，学割証は 1 人 1 日 3 枚，年間 10 枚までです。）就職活動のために，成績証明書の厳封が必要な場合は，出力後，理学研究科学務係の窓口までお持ちください。その場で厳封します。

証明書自動発行機は、下記の場所に設置されています。

【豊中キャンパス】

○全学教育管理・講義A棟2階ロビー（1台）（8:30～17:00）

○豊中学生センター2階ホール（2台）（8:30～17:00）

【吹田キャンパス】

○吹田学生センター カウンター前（1台）（8:30～17:00）

○工学部管理棟1階（U1M）（2台）（9:00～17:00）

○医学部医学科共通棟1階（1台）（8:30～17:00）

【箕面キャンパス】

○外国語学部 研究・講義棟A棟南側玄関（2台）（8:30～17:00）

Q11 私って卒業できますか？（4年次学生に多い質問）

A11 学科別履修指針にある「卒業所要単位数」表を参照の上、各自で計算してみましょう。不明な点があれば、理学研究科学務係へお問い合わせください。

Q12 レポート課題などで、先輩や同級生のレポートを参考にすることは、どの程度許されるのでしょうか。

A12 レポートは、試験と同じく、個人個人が習得した学力をはかる資料ですから、他人のレポートやネットの記事を写して、自分のレポートとすることはできません。それは、試験のカンニングと同等な不正行為とみなされます。参考として引用することはありえますが、その場合は引用元を明らかにしなくてはなりません。実習や演習などで、グループで協力してレポートを作成することを担当教員が認めている場合にはデータ等を共有することがあります。しかし、その場合も個人で提出する場合は、表現が人によって異なるはずです。自分なりのオリジナルなレポートの作成を心がけましょう。